

1 日本の農業(1)-米づくり-

1 日本の米づくり

(1) 日本の米づくり

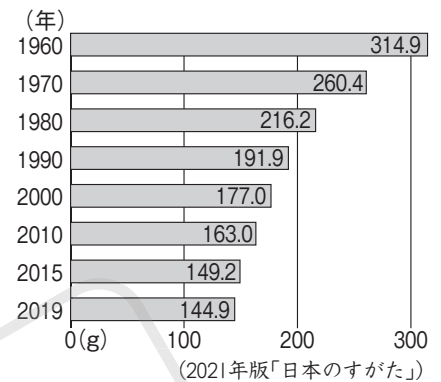
① 日本人と米づくり

日本人は、古くから米づくり(稲作)を中心とした農業を基本とした生活を送ってきました。熱帯性の植物である稲が、夏に高温となり、降水量が多い日本の気候に合っていたからです。

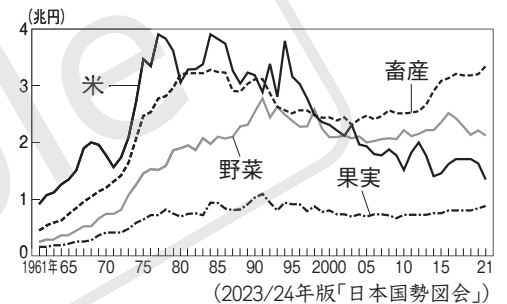
② 進む「米ばなれ」

現在でも、日本の農業における作付面積で最も多いのは稲です。しかし、戦後の日本で食生活の洋風(西洋・欧米)化が進み、米の消費量がへったこともあり、生産額は畜産・野菜に次ぐものとなっています。「米ばなれ」をふせぐため、ブランド品種を開発したり、米粉の利用を広めたりするなどの取り組みがおこなわれています。

▼1人1日あたり米の消費量



▼主な農産物の総生産額のうつり変わり



(2) 米づくりの作業

① 米づくりの流れ

米づくりは春先に始まり、秋のしゅうかくまで続きます。

- ・塩水選……よい種もみを選ぶため、塩水につけます(しずんだものを選びます)。
- ・育苗……ビニールハウスの中で苗を育てます。
- ・田起こし……田を耕し、肥料をまきます。
- ・代かき……水を引き、土の表面を平らにします。
- ・田植え……水田に苗を植えます。
- ・稲を育てる……水の管理・草取り・農薬の散布などをおこないます。
- ・中干し……田の水をいったんぬきます。
- ・稲かり……コンバインで稲かりをおこないます。

▼トラクター



※トラクターは、田起こしや代かきに使われます。

▼コンバイン

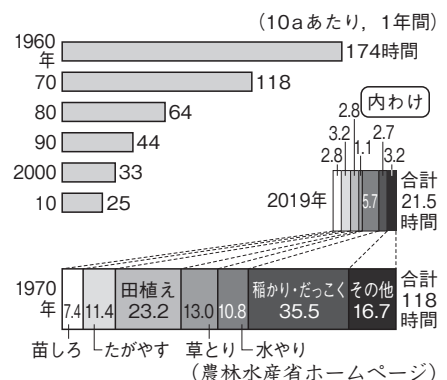


※コンバインを使うと、稲かりとだっこく(稲からもみをはずす作業)を同時におこなうことができます。

② 進む機械化

米づくりには、トラクターやコンバインなどの機械が使われます。機械の価格は高いのですが、作業にかかる時間は大はばに短くなります。

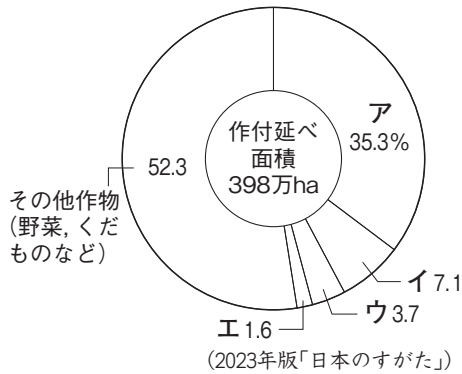
▼米づくりにかかる時間の変化



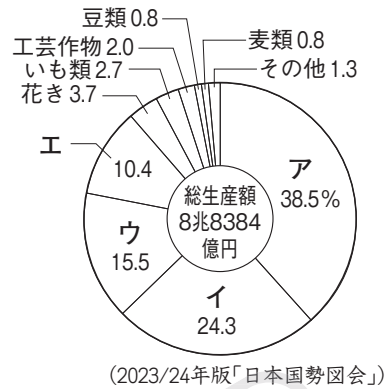
基本問題

1 日本の米づくり 次のグラフを見て、あとの問いに答えなさい。

A 農作物の作付面積の割合(2021年)



B 農産物の総生産額の割合(2021年)



□(1) Aのグラフ中のア～エのうち、「稲」をしめしているものを1つ選びなさい。

□(2) Bのグラフ中のア～エのうち、「米」をしめしているものを1つ選びなさい。

2 米づくりの作業 次の写真を見て、(1)・(2)の問いに答えなさい。

①



②



□(1) ①～⑥の米づくりの作業をそれぞれ何と
いいますか。

①

③



④



②

③

④

⑤

⑥

⑤



⑥



□(2) ⑥の作業で使う機械の名前を答えなさい。

2 米づくりのさかな地いき

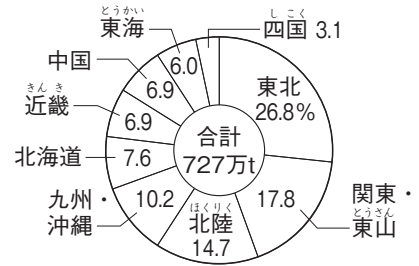
(1) 米づくりのさかな地いき

① 米づくりのさかな地方

稲は熱帯性の植物ですが、日本では東北地方など北よりの地いきで広く栽培されています。これは、長年にわたる品種改良の努力により、これらの地いきで起こりやすい、冷害に強い稲がつくられたからです。東北地方の米の生産量は、全国のおよそ4分の1をしめています。

※東北地方の太平洋側は、やませという冷たい北東風などのえいきょうで、冷害が起こりやすくなっています。

▼米の地方別生産量の割合(2022年)



北陸は新潟・富山・石川・福井の4県、東海は岐阜・静岡・愛知・三重の4県、東山は山梨・長野の2県。

(2023年版「日本のすがた」)

② 米づくりのさかな都道府県と米の品種

- 北海道……石狩川流いきの石狩平野・上川盆地／「ななつぼし」「きらら397」
- 秋田県……雄物川下流の秋田平野／「あきたこまち」
- 山形県……最上川下流の庄内平野／「はえぬぎ」
- 宮城県……北上川・阿武隈川下流の仙台平野／「ひとめぼれ」
- 新潟県……信濃川・阿賀野川下流の越後平野／「コシヒカリ」

※茨城県は、台風が来る前にしゅうかくする早場米の生産で知られています。

▼都道府県別の米の生産量(2022年)

	しゅうかく量(t)	割合 (%)
新潟	631 000	8.7
北海道	553 200	7.6
秋田	456 500	6.3
山形	365 300	5.0
宮城	326 500	4.5
茨城	319 200	4.4
福島	317 300	4.4
栃木	270 300	3.7
千葉	259 500	3.6
岩手	247 600	3.4
青森	235 200	3.2
富山	197 400	2.7
長野	187 300	2.6
兵庫	177 000	2.4
福岡	164 000	2.3
熊本	156 800	2.2
全国	7 270 000	100.0

(2023年版「日本のすがた」)

③ 米の生産量が少ない都道府県

高知県は平地が少ないこと、沖縄県は大きな川がないことから、米の生産量が少なくなっています。また、東京都や神奈川県・大阪府など大都市をかかえる地いきも米の生産はさかんではありません。

発展学習

(1) 米づくりと日本人の生活

米づくりは、今から2500～3000年ほど前に、中国や朝鮮半島から伝わり、全国に広まったとされています。日本人の生活は米づくりとともにあったため、豊作をいのったり、しゅうかくを感謝したりする祭りは、とても大切な行事でした。

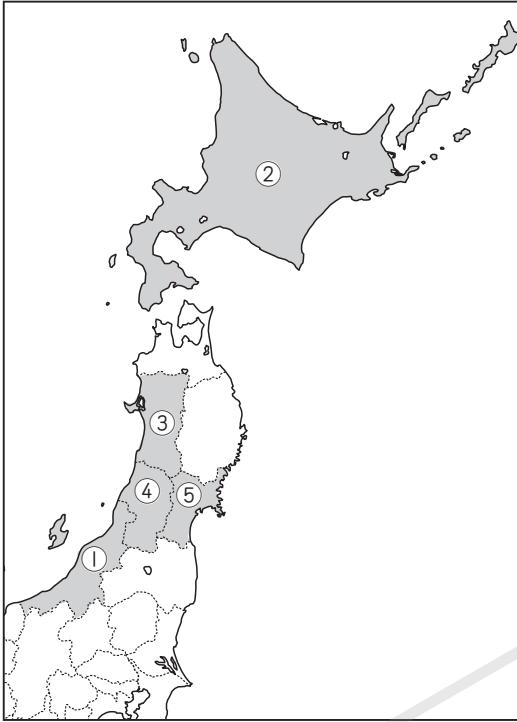
正月料理に「田づくり(五万米)」といういわしの小魚を使った料理があるのも、かつては田の肥料としていわしを干したものが使われていたことに由来します。

▼田づくり(五万米)



基本問題

3 米づくりのさかんな地いき 次の地図は、米の生産量(2022年)が多い5つの都道府県をぬりつぶしたものです。これを見て、(1)~(3)の問いに答えなさい。



□(1) 地図中の①~⑤の都道府県名をそれぞれ答えなさい。

①(63.1万トン)

②(55.3万トン)

③(45.7万トン)

④(36.5万トン)

⑤(32.7万トン)

□(2) (1)①~⑤の都道府県で米づくりの中心となっている平野・盆地を、次のア~オから1つずつ選びなさい。

ア 秋田平野

イ 越後平野

ウ 上川盆地

エ 庄内平野

オ 仙台平野

①

②

③

④

⑤

□(3) (1)①~⑤の都道府県で生産されている主な米の品種を、次のア~オから1つずつ選びなさい。

ア ひとめぼれ

イ はえぬき

ウ ななつぼし

エ コシヒカリ

オ あきたこまち

①

②

③

④

⑤

(2) 米の品種改良の努力

かつて米の品種改良といえば、冷害に強い品種づくりが主なものでした。しかし、近年の日本では夏に猛暑となることが多くなっているため、高温にも強い品種改良の努力がおこなわれています。

また、味のよい高品質の米の品種も開発されており、その多くは各地の「ブランド米」となっています。これらの品種の基礎となったのが、コシヒカリです。

▼主なコシヒカリの子孫

- ・あきたこまち(秋田県)
- ・ヒノヒカリ(宮崎県)
- ・ひとめぼれ(宮城県)
- ・森のくまさん(熊本県)
- ・はえぬき(山形県)

練習問題

1 米づくりの作業 次の図は、稲の生長と1年の作業をかんたんにとまとめたものです。これを見て、あとの問いに答えなさい。

時期	3月～5月	4月～6月	5月～9月	8月～11月
稲の生長	種もみ → 芽が出る	葉2～3まい	葉とくきの数がふえる → 穂のもとがでる → 穂が出て花がさく	実る
1年の作業	苗 A →	B ↓		
水田	C → D →	E →	F 病害虫や雑草をいせぐ 水の管理 肥料をまく(追肥)	G → H → かんそう → もみすり → 精米

(JAなごやホームページより作成)

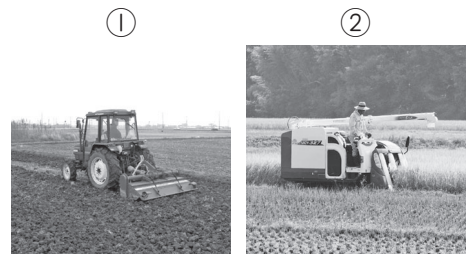
□(1) 図中のA～Hでおこなわれる作業を説明した文を、次のア～クから1つずつ選びなさい。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| ア 稲からもみをはずす。 | イ 稲をかりとる。 |
| ウ 水田の水をぬき、土をかわかす。 | エ 田に水を引き、土を平らにならす。 |
| オ 種もみを塩水につけ、よい種もみを選ぶ。 | カ 田を耕し、肥料をまく。 |
| キ 苗を田に植える。 | ク ビニールハウスの中で苗を育てる。 |

A <input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>	B <input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>	C <input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>	D <input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>
E <input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>	F <input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>	G <input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>	H <input style="width: 100px; height: 30px;" type="text"/>

□(2) 右の①の農業機械はC・Dの作業、②の農業機械はG・Hの作業をおこなうのに使われます。それぞれの農業機械の名前を、カタカナで答えなさい。

① ②



□(3) (2)のような農業機械を使うと、米づくりをおこなう農家にとってどのようなよい点がありますか。かんたんに説明しなさい。

2 米づくりのさかんな地いき 次のA～Gの文は、日本の各都道府県の米づくりについて説明したものです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

A	おももの雄物川の下流にある平野などで米づくりがおこなわれています。この都道府県では、この都道府県出身の歴史上の女性から名づけられた(①)という品種が生産されています。
B	しなの信濃川の下流にある(②)平野で米づくりがおこなわれています。この都道府県では、「コシヒカリ」という品種が生産されています。
C	いしかり石狩川の上流にある(③)盆地や、下流にある石狩平野で米づくりがおこなわれています。この都道府県では、「ななつぼし」や「きらら397」などの品種が生産されています。
D	きたかみ北上川や阿武隈川の下流にある(④)平野で米づくりがおこなわれています。この都道府県では、「ひとめぼれ」という品種が生産されています。
E	もがみ最上川の下流にある(⑤)平野で米づくりがおこなわれています。この都道府県では、「はえぬき」や「つや姫」という品種が生産されています。
F	とね利根川の下流にあるこの都道府県は、関東地方で最も米の生産量が多くなっています。この都道府県では、台風が来る前にかりとる(⑥)米の生産がおこなわれています。
G	多くの島々からなるこの沖縄県は、気温が高く降水量も多いのですが、米づくりはさかんではありません。この県の米の生産量は、東京都に次いで少なくなっています。

□(1) A～Fで説明された都道府県の名前を、それぞれ答えなさい。

A B C D
 E F

□(2) A～Fの文中にある(①)～(⑥)にあてはまることば・地名を、それぞれ答えなさい。

① ② 平野 ③ 盆地 ④ 平野
 ⑤ 平野 ⑥ 米

□(3) A～Eの都道府県は、日本で米の生産量が上位となっています。このうち、最も米の生産量が多い都道府県を1つ選びなさい。

□(4) A・D・Eは、日本で最も米の生産量が多い東北地方にあります。この地方は日本の米の生産量のうちどれくらいの割合をしめていますか。次のア～エから1つ選びなさい。

ア 約2分の1 イ 約4分の1 ウ 約6分の1 エ 約8分の1

□(5) Gの沖縄県で米づくりがさかんでない理由を、かんたんに説明しなさい。

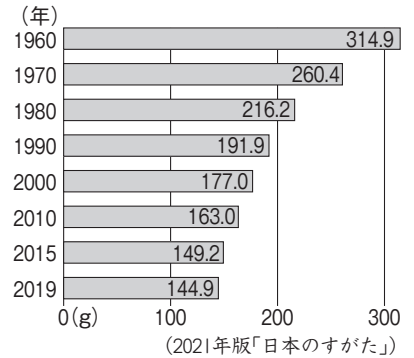
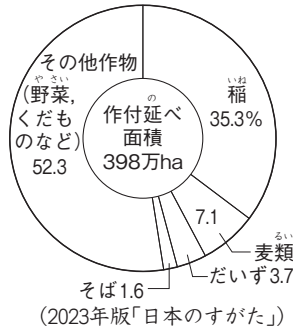
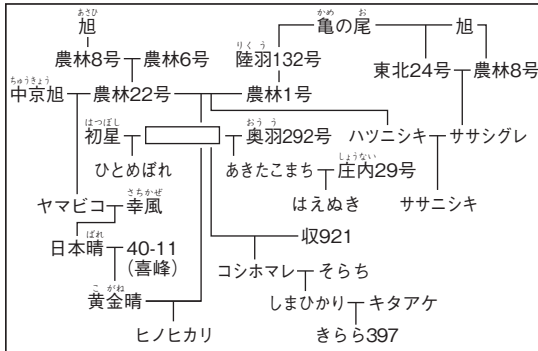
㊦ 日本の米づくり 次のA～Cの資料を見て、あとの問いに答えなさい。

A 米の品種改良

B 農作物の作付面積の割合

C 1人1日あたり米の消費量

(2021年)



(1) Aの資料について、次の問いに答えなさい。

- ① 資料中の にあてはまる米の品種は、「ひとめぼれ」など多くのブランド品種のもととなっているものです。 にあてはまる品種の名前を答えなさい。
- ② 資料にあるような米の品種改良は、もともとは冷害などの稲の害をふせぐためにおこなわれていました。特に、冷害が起こりやすい東北地方の太平洋側では、こうした品種改良に力を入れていました。なぜこの地いきでは冷害が起こりやすいのですか。かんたんに説明しなさい。
-

㊦ □(2) Bの資料について、これを見ると、米づくり(稲作)は現在でも日本の農業の中心となっていることがわかります。日本では古くから米づくりがおこなわれており、日本人の生活と深く結びついていました。右の写真にしめした正月料理も、かつてある魚が肥料として広く使われていたことと関係があります。この料理の名前と、肥料として使われていた魚の名前をそれぞれ答えなさい。



料理

魚

(3) Cの資料について、次の問いに答えなさい。

- ① Cの資料を見ると、現在の日本の米づくり(稲作)がかかえている問題が読みとれます。現在の日本人の食生活の洋風化と関係の深いこの問題について、かんたんに説明しなさい。
-
- ② ①のような問題を解決するために、どのような努力が進められていますか。例を1つあげて説明しなさい。
-

学習のまとめ

◆ 次の(1)~(16)の()にあてはまることばを答えなさい。

日本の米づくり

- (1) 稲は、熱帯性の植物であるため、夏に高温となり、()が多くなる日本の気候にてきしています。
- (2) 米づくりのさかんな地いきでは、「あきたこまち」や「ひとめぼれ」といった()品種の生産に力を入れています。
- (3) 戦後、日本人の食生活が()化したため、「米あまり」「米ばなれ」といった問題がおこっています。
- (4) 米づくりは、()を使ってよい種もみを選ぶことから始まります。
- (5) 苗づくりは、温度の管理ができる()というしせつの中でおこなわれます。
- (6) 田起こしをした田に水を引き入れ、土の表面を平らにする作業を()といいます。
- (7) 土の中のガスをぬき、根をしっかりと生やすためにいったん水田の水をぬく作業を()といいます。
- (8) 米づくりで使われる農業機械のうち、稲かりをするのに使われるものを()といいます。
- (9) (8)の農業機械を使うと、稲かりと同時に()をおこなうことができます。
- (10) 米づくりに(8)などの農業機械を使うと、米づくりの作業にかかる()を短くすることができます。

- (1) _____
- (2) _____ 品種
- (3) _____ 化
- (4) _____
- (5) _____
- (6) _____
- (7) _____
- (8) _____
- (9) _____
- (10) _____

米づくりのさかんな地いき

- (11) 日本の米の生産量のおよそ4分の1をしめるのは、秋田県や山形県などがある()地方です。
- (12) 日本の米の生産量の上位は北よりの都道府県がしめていますが、これは冷害などの稲の害をふせぐために()の努力がおこなわれた結果です。
- (13) 米の生産量第1位となっているのが()県で、信濃川の下流に広がる越後平野が中心となっています。
- (14) 米の生産量第2位の北海道の米づくりは、()平野や上川盆地が中心となっています。
- (15) 米の生産量第4位の山形県の米づくりは、()川の下流に広がる庄内平野が中心となっています。
- (16) ()県は米づくりにてきた亜熱帯性の気候ですが、大きな川がないために米の生産量は少なくなっています。

- (11) _____ 地方
- (12) _____
- (13) _____ 県
- (14) _____ 平野
- (15) _____ 川
- (16) _____ 県